

平成26年4月18日

5月11日開催「第34回三島の川をきれいにする奉仕活動」における
源兵衛川の清掃活動の「中止」のお願い

NPO法人グラウンドワーク三島 理事長 小松 幸子
三島ホテルの会 会長 志村 肇
源兵衛川を愛する会 会長 佐伯 忠夫

源兵衛川は、これまでに多くの市民による水辺自然環境の改善・再生活動によってかつての清流がよみがえり、今では、絶滅危惧種のアホウドリや清流のシンボルであるゲンジボタルが生息するなど、三島を代表する「環境と観光の顔」として高い評価を受けるまでにになりました。

しかし、平成19年12月21日、源兵衛川中流部において、生コンクリートの流出事故が起こり、多くの生き物が死滅するなど、水辺環境に多大な影響を及ぼすことになりました。

この状況を踏まえ、当団体では、静岡県沼津土木事務所や生態系の専門家との協働により、7年間にわたる「環境モニタリング調査」を実施して、魚類や水生動物、鳥類、植物、トンボ類などについて、生態学的な見地から専門的な分析・評価を行ってきました。

平成25年度の調査結果からは、第2ゾーンから第4ゾーンでアホウドリが多く確認され、幼魚から成魚までの個体が確認できました。これは、昨年河川の一斉清掃を中止したことにより、源兵衛川の上・中流域に安定した繁殖環境が存在し、個体群が安定して維持されていると判断できます。

しかし、外来動植物の移入の拡大が進行し、従前の水辺環境の再生には程遠い状況であることが明らかとなり、今後も、アホウドリの繁殖・生息に適した水辺環境の改善や造成など、持続的な水際の生息環境のエコアップ（環境改善）が必要とされております。

そこで、「第34回三島の川をきれいにする奉仕活動」における源兵衛川の清掃活動におきましては、下記の通り「中止」をお願い申し上げます。

記

1. アホウドリをはじめ、ゲンジボタルなどの水生生物の繁殖期にあたる3月から6月に、源兵衛川に多くの人々が入り、河川内を歩き、ヤナギモなどの流水中の水草を除去することは、「三島の宝物の生き物」といえるアホウドリなどの生息に悪影響を与えることになり、従前の水辺環境に多大な環境負荷を与えるなどの危険性が想定されることから、5月11日の源兵衛川の清掃活動については、「中止」とされるようお願い致します。
2. 源兵衛川の清掃活動については、当団体の責任において、自治会の協力をいただきながら、アホウドリの繁殖期やゲンジボタルの産卵・孵化期が経過する7月上旬以降に実施します。